

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	環境意識啓発事業(生活と環境まつり開催事業)				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)	
部等名	水道環境部	課等名	環境課		包含する細々目	1	4	1	5	15	4	900	
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり												
施策	55環境改善活動の展開												
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議		不要	21 いいた環境プラン						
		事業期間	9	年度～	年度	関連計画条列等							

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	飯田市を中心とする地域の住民、市民団体、事業所	飯田市を中心とする周辺地域の住民(人)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする
			108624	106000		
	市民団体、事業所	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		最終目標達成年度	
			7000	7000		
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	環境と健康、日常生活に関する意識の高揚が図られます。	意識の高揚が図られたとする住民の割合(%)	18目標	92	最終目標	
			18実績	79	19目標	82
			23目標	90	23実績	
			18目標		最終目標	
18実績				19目標		
23目標				23実績		

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	健康と生活と環境をテーマとした総合イベントを開催します。行政、市民団体、事業所等による実行委員会方式で実施します。具体的な実施方法や内容については、実行委員会で検討し、企画運営を行います。	18年度の実績 市民(市民団体)、事業者、行政の環境保全活動等の展示、紹介を行うと共に、シンポジウム、体験型の展示を行ない、より効果的な内容で、市民の意識高揚が図れるよう企画、運営を検討し、多彩な内容で開催しました。市民団体主導のイベントになるよう、実行委員会活動の支援を行いました。	来場者数(人) 参加団体による出展数	5000 79
	19年度計画 市民(市民団体)、事業者、行政の環境保全活動等の展示、紹介を行うと共に、シンポジウム、体験型の展示を行ない、より効果的な内容で、市民の意識高揚が図れるよう企画、運営を検討し、多彩な内容としていきます。19年度は、国際連合大学のゼロエミッションフォーラム NHK・農山漁村文化協会との共催である食育フェアを同日開催し、より効果を高めます。市民団体主導のイベントになるよう、各団体間の調整を行う等、実行委員会活動を支援します。	来場者数(人) 参加団体による出展数	5100 82	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	900	900
	事業費計(A)	900	900
人件費	正規職員所要時間	18年度 800	19年度 800
	臨時職員等所要時間	50	50
	人件費計(B)	2,915	2,915
	トータルコストA+B	3,815	3,815

特定財源内訳や補足事項
長野県環境保全協会補助金50万円 ただし、19年度以降もらえるかは不透明

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	市民、事業者が、環境改善活動を継続的に展開する。	環境目標(エコライフ目標)項目の達成割合(%) (達成数/目標項目12)	現状値	48	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	67
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
開催当初は、各課単独での事業でしたが、その後他の団体との合同開催とし、合理化を図りました。 (ごみを考える集い、下水道まつり、水道週間、いきいきみんなの生活展及び健康いいだ21フェスティバルを統合) 市民の環境保全意識の高揚とエコライフの実践を目的に開催しました。	イベントへの参加人数は、頭打ちの状態であり、内容の工夫が必要です。	イベントに参加した市民からは、開催の主旨と環境保全の大切さを理解できたとの評価があります。 一方、実行委員のメンバーからは、来場者数が頭打ち傾向にあり、企画内容や開催方法について、見直す必要があるとの意見もあります。

【See】18年度の振り返り

目的妥当性評価	この事業の意図の達成か、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)	
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		飯田下伊那を中心とした地域住民、市民団体、事業者が対象であり、対象の見直しの必要性はないと考えます。	廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		意識づくりは、継続して行うことにより、より大きな効果が得られると考えられるため、意図の見直しの必要性は必要ないと考えます。	他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 類似事業なし (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由)		市が関わることで、各団体間の調整等が円滑に行われます。また、意識づくりの大きな機会であり、市としても積極的に関わっていく必要があると考えます。	成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 可能 (その理由)
			公平性評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)	
					受益者は来場者で、事業の開催趣旨から来場者の入場料等は無料ですが、販売など収入を伴う出展をする者からは出店負担金として応分の負担をしていただいています。	

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	制約のある日数、場所の設定の中で、より効果を上げられるよう、一層の工夫をしていきます。 19年度は、国際連合大学のゼロエミッションフォーラムとNHK・農山漁村文化協会との共催である食育フェアを同日開催し、今まで以上に多方面の関係者の参加を得る予定です。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	開催方法、イベント企画及び内容について市民参加の実行委員会を中心に検討し、多くの市民参加の中で実施します。 ゼロエミッションフォーラムを同日開催することで、関係者も増えることから、より一層関係者の連絡調整を円滑に行う必要があります。実行委員会の場だけでなく、随時関係者と連絡を取り合っていきます。

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がある	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？		

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	